

論 説



第5回品質工学技術戦略研究発表大会 からの今後の方向性の検討

The Discussion of Futurs Direction Throught the 5th Quality Engineering, Strategy Study Meeting

吉澤 正孝*

Masataka Yoshizawa

1. はじめに

2012年11月16日に第5回品質工学技術戦略研究発表大会が開催された。その表題は「品質工学会—20年のまとめとこれから」というテーマであった。全員が20年の総括という報告でなかった。現在、各方面で活躍している方々の発表であり、当日のパネル討論会である程度方向性は得られるのではないかと考えていたが、発表からのメッセージの消化不良もあり、目的を達成できなかった。その後、当日のメモをふり返り、それぞれのメッセージを考察する過程で、ぼんやりと今後の活動の方向性が見えてきたのではないかと思います、今後の議論のきっかけになればと思います、ここにまとめておくことにした。当日の発表アジェンダは表1のようである。

2. 各自の主張から受けるメッセージ

2.1 浜田からのメッセージ

浜田の発表は、品質工学会の発足から20年間に報告された論文の分析第2報であった。昨年の分析をさらに深めた点は評価できる。発表件数の推移や会員の減少から、浜田は次のような結論を引き出している。フォーラムが設立された当時、一部で利用されていた品質工学を各企業や研究所でかかえる問題を解決したい理由で利用してきた。しかし、20年経ち多くの企業で社内教育し、自前で実践できるようになってきた。20年を経過して、設立当初の期待に対して品質工学会はその任を果たしてきたとまとめている。その結果として当初の問題解決に興味を持つ会員が減ってきたのではないかと結んでいる。

論文には示されていないが、当日の発表で示され

表1 発表アジェンダ

次 第	表 題	当日発表者
開会挨拶		伊藤 源嗣
発表1	品質工学研究の変遷と発展 (2)	浜田 和孝
発表2	金属材料評価方法の検討	衛藤 洋仁
発表3	診療・教育・研究分野での、MTシステムを用いた Evidence-Based Medicine の実践	中島 尚登
発表4	街づくりにおける MT システム活用の可能性	吉野 荘平
発表5	田口玄一の主張とその実践的社内展開の研究	小木曾元一
発表6	技術フォーカスと知識構造に関する研究	吉澤 正孝
パネル討論	品質工学会—20年のまとめとこれから	久米原宏之 登壇者
閉会挨拶		小池 昌義